

## ワクチンの効果

- 新型コロナワクチンは、有効性や安全性が確認された上で薬事承認されており、さらに、国内外で実施された研究において、新型コロナ感染症による入院などの重症化を予防する効果が報告されています。
- 2023/24シーズン(令和5年度秋冬の接種)で用いられたオミクロンXBB.1.5系統対応ワクチンの効果として、新型コロナ感染症による入院を約40~70%程度予防した等の報告(※)が国内外で行われています。

(※)VERSUSStudy第11報(2024)、EuroSurveill.2024;29(1)、JAMAInternMed.2024;e241640、MMWR.2024;73:180-188L

## ワクチンの安全性

各社のワクチンについて、以下のような副反応がみられることがあります。また、頻度は不明ですが、重大な副反応として、mRNAワクチンについては、ショック、アナフィラキシー、心筋炎、心膜炎、組換えタンパクワクチンについては、ショック、アナフィラキシーがみられることがあります。

発現割合	症状				
	mRNAワクチン				組換えタンパクワクチン
	ファイザー社	モデルナ社	第一三共社	Meiji Seika ファルマ社	武田薬品工業社
50%以上	痛み <sup>*1</sup> 、疲労、頭痛	痛み <sup>*1</sup> 、疲労、頭痛	痛み <sup>*1</sup> 、倦怠感	痛み <sup>*1</sup>	痛み <sup>*1</sup> 、疲労、筋肉痛、頭痛
10~50%	筋肉痛、悪寒、関節痛、発熱、下痢、腫れ <sup>*1</sup>	筋肉痛、悪寒、関節痛、吐き気・嘔吐、リンパ節の腫れや痛み、発熱、腫れ <sup>*1</sup> 、しこり <sup>*1</sup> 、赤み <sup>*1</sup>	熱感 <sup>*1</sup> 、腫れ <sup>*1</sup> 、赤み <sup>*1</sup> 、かゆみ <sup>*1</sup> 、しこり <sup>*1</sup> 、頭痛、発熱、筋肉痛	倦怠感、頭痛、悪寒、筋肉痛、関節痛、発熱、めまい、腫れ <sup>*1</sup> 、しこり <sup>*1</sup> 、赤み <sup>*1</sup>	倦怠感、関節痛、吐き気・嘔吐
1~10%	赤み <sup>*1</sup> 、リンパ節の腫れや痛み、嘔吐、疼痛	痛み <sup>*2</sup> 、腫れ <sup>*2</sup> 、赤み <sup>*2</sup> 等 <sup>*2</sup>	赤み <sup>*2</sup> 、腫れ <sup>*2</sup> 、かゆみ <sup>*2</sup> 、熱感 <sup>*2</sup> 、しこり <sup>*2</sup> 、痛み <sup>*2</sup> 、リンパ節の腫れや痛み、発疹、腋の痛み	かゆみ <sup>*1</sup> 、下痢、吐き気、嘔吐	腫れ <sup>*1</sup> 、しこり <sup>*1</sup> 、赤み <sup>*1</sup> 、発熱、四肢痛

各社の添付文書より厚労省において作成 ※1ワクチンを接種した部位の症状 ※2接種後7日以降に現れる、ワクチンを接種した部位の症状

## 他のワクチンとの同時接種

新型コロナワクチンは、医師が特に必要と認めた場合に、インフルエンザワクチンや高齢者に対する肺炎球菌ワクチンと同時接種が可能です。

### 予防接種健康被害救済制度について

予防接種は、感染症を予防するために重要なものですが、健康被害(病気になったり障害が残ったりすること)が起こることがあります。極めてまれではあるものの、副反応による健康被害をなくすことはできないことから、救済制度が設けられています。制度の利用を申し込むときは、予防接種を受けたときに住民票を登録していた市町村にご相談ください。

新型コロナワクチンの有効性・安全性などの詳しい情報については、厚生労働省ホームページの「新型コロナワクチンについて」のページをご覧ください。

厚労 コロナ ワクチン

検索

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。

